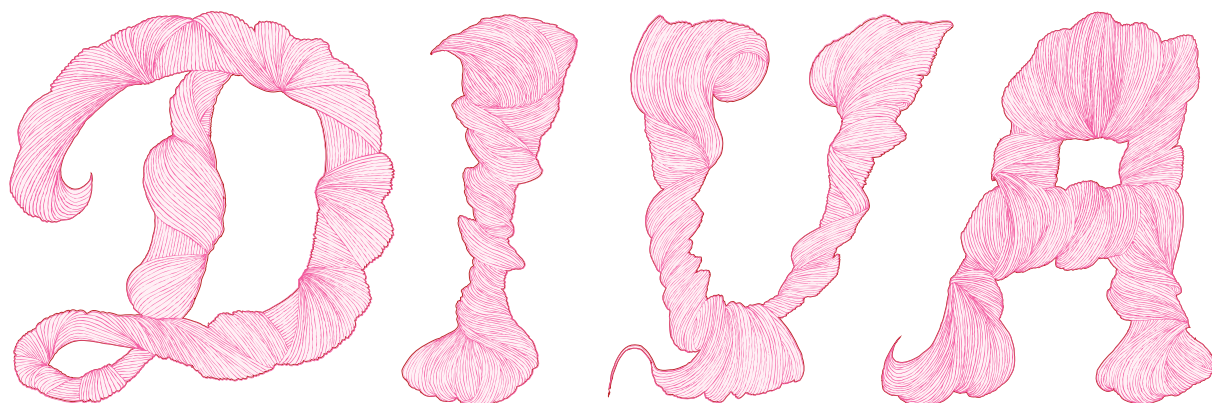




「ディーヴァ」展 私を動かす、その歌声

2027年3月24日（水）～7月19日（月・祝） 国立新美術館

世界を魅了した歌声とともに、時代を切り拓いた約100名のディーヴァたちの軌跡をたどる展覧会「ディーヴァ」が2027年3月24日（水）～2027年7月19日（月・祝）に国立新美術館で開催決定！

英国ロンドンのヴィクトリア＆アルバート博物館(V&A)が企画し2023年にスタート。世界5カ国を巡回し、各地で大きな反響と話題を呼んだ展覧会「ディーヴァ」。アジアで唯一、そして最後の開催地である東京で、日本展のみの展示作品を加え、そのフィナーレを飾ります。

<展覧会概要>

その歌声で世界を魅了し、時代を動かしてきたディーヴァ

本展は、19世紀から現代にいたるディーヴァの歴史とその概念の変遷をたどり、その圧倒的な創造性、社会的な影響力、文化的意義を考察する展覧会です。

その歌声、表現、そして揺るぎない信念は、ファッションやアート、デザインはもとより、ジェンダーの平等、社会にまで大きな影響を与え、多くの人々に勇気とインスピレーションをもたらしてきました。

オペラ、舞台、映画、ポピュラー・ミュージックの世界で活躍する約100名の歌手・パフォーマーたちを紹介し、ディーヴァたちの軌跡を通して、彼らが既成概念や偏見に挑み、自らの声と表現によって新たな時代を切り拓くことで、多くの人々を勇気づけていったその歩みを紹介します。

＜本展のみどころ＞

1. V&A ならではのキュレーション

初公開の貴重な衣装や展示作品の数々、日本展ならではの新たな魅力も

ロンドンの V&A が企画・制作した本展では、V&A の所蔵品に加えて個人蔵の貴重な衣装や資料、約 280 点を展示します。マリア・カラス、マリリン・モンロー、アデル、レディー・ガガ、エルトン・ジョン、リアーナ、ビョークをはじめとするディーヴァが印象に残るシーンで実際に身に着けた約 60 点の貴重な衣装を中心に、写真、映像、雑誌、ポスター、LP、さらには、ディーヴァたちをモデルに制作された版画作品など、多彩な作品を通して約 100 名のディーヴァの世界を描き出します。さらに、日本展独自の内容を追加し、紹介します。



V&A のディーヴァ展の展示風景
© Victoria and Albert Museum, London



サラ・ベルナール、「ジャンヌ・ダルク」のポスター
© Victoria and Albert Museum, London

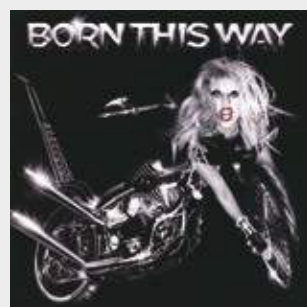
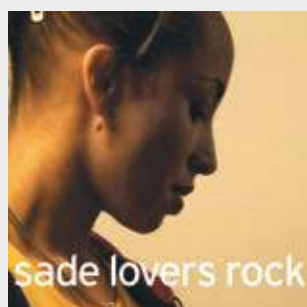
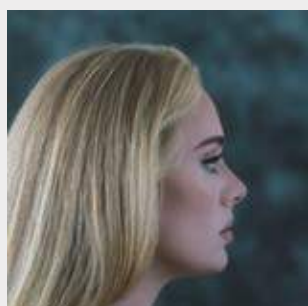
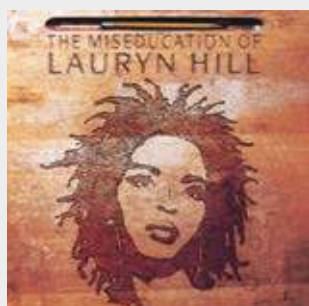
2. 舞台芸術、映画、ポピュラー・ミュージックの 200 年にわたる歴史を フェミニズムの視点を加えて検証

ディーヴァという存在の変遷を多角的に見つめる画期的な展覧会

ディーヴァたちがいかに圧倒的な創造性と表現力で文化に影響を与えてきたか。家父長制を規範とする男性中心の社会の中で、女性やクィアの歌手・パフォーマーたちが自己表現を通して、いかにして主体性を獲得し、既存の価値観や偏見に挑み続けてきたのかを見つめます。さらに、「ディーヴァ」という言葉の意味が歴史の中でどのように展開し、時代を超えて受け継がれていったのかを検証します。

3. ディーヴァの「歌声」に包まれる特別な鑑賞体験

本展では、ディーヴァたちの音楽や映像とともに展示空間を巡る演出によって、それぞれの時代を象徴するディーヴァたちの存在感や創造のエネルギーを体感できます。展示作品を一つひとつ見るだけでは得られない、その時代の空気や熱量まで感じられることも本展ならではの魅力です。



ビヨンセ「レモネード」①、ビリー・アイリッシュ「ホエン・ウィ・オール・フォー・アスリープ、ホエア・ドゥ・ウィ・ゴー？」②、エイミー・ワインハウス「バック・トゥ・ブラック」②、ティナ・ターナー「シンプリ・ザ・ベスト」③、マドンナ「アイム・プレスレス」③、ドリー・パートン「ナイン・トゥ・ファイブ・アンド・オッド・ジョブズ」①、ビョーク「フォソーラ」④、リアーナ「グッド・ガール・ゴーン・バッド」②、ローリン・ヒル「ミスエデューケーション」①、アデル「30」①、クイーン「ザ・ワークス」①、アニー・レノックス「ディーバ」①、ビリー・ホリデイ「奇妙な果実」②、プリンス「パープル・レイン」③、シャーデー「ラヴァーズ・ロック」①、レディー・ガガ「ボーン・ディス・ウェイ」②

ジャケット写真提供：①株式会社ソニー・ミュージックレーベルズ ②ユニバーサルミュージック合同会社 ③ワーナーミュージック・ジャパン ④BIG NOTHING

< 展覧会構成 >



第 1 幕「ディーヴァの誕生」

19 世紀のオペラ歌手を起点とし、黄金期のハリウッドスターたち、そして 20 世紀の歌姫の戦いと葛藤に焦点を当て、「ディーヴァ」という言葉とイメージの変遷をたどります。

『椿姫』でヴィオレッタ役を演じるマリア・カラス（1958 年）

Houston Rogers © Victoria and Albert Museum, London



第 2 幕「ディーヴァの再生・復活」

1960 年代の第 2 波フェミニズムの展開を起点とし、公民権運動から現代にいたる時間軸の中で、ディーヴァたちの変遷をたどり、その活躍が性や人種に関する社会的な解放と多様な生き方の承認をめぐる闘いに、いかに貢献してきたのかを紹介します。

※第 2 波フェミニズムとは、女性参政権の獲得を目指した第 1 波フェミニズムに続き、「個人的なことは政治的なこと」というスローガンのもとに、社会構造における男女の不平等、不公平を解消しようとする運動です。

ドルリー・レーン王立劇場（ロンドン）のステージに立つグレイス・ジョーンズ（1981 年 10 月 10 日）

Photograph © David Corio

本展で紹介するディーヴァ（一部）

第 1 幕：ディーヴァの誕生

アデリーナ・パッティ
サラ・ベルナール
イサドラ・ダンカン
グロリア・スワンソン
マレーネ・ディートリッヒ
ジョセフィン・ベイカー
ヴィヴィアン・リー
ジュディ・ガーランド
マリア・カラス
マリリン・モンロー
エリザベス・テイラー
ジェシー・ノーマン

第 2 幕：ディーヴァの再生・復活

エディット・ピアフ
ビリー・ホリデイ
ニーナ・シモン
アレサ・フランクリン
バーブラ・ストライサンド
ジャニス・ジョップリン
ドリー・パートン
シェール
フレディ・マーキュリー
エルトン・ジョン
グレイス・ジョーンズ
プリンス

マドンナ
ホイットニー・ヒューストン
ビョーク
マライア・キャリー
ローリン・ヒル
ビヨンセ
エイミー・ワインハウス
レディー・ガガ
リアーナ
アデル
テイラー・スウィフト
ビリー・アイリッシュ

<ヴィクトリア&アルバート博物館>

V&A は、ロンドンのサウス・ケンジントンをはじめとする 5 地域 6 施設から構成される英国の国立博物館です。

1852 年の創設以来、絵画や彫刻にとどまらず、ファッション、工業デザイン、建築、写真、舞台芸術など、多様な創造分野を対象としており、近年では音楽をテーマにした展覧会にも力を入れています。あらゆる形のデザインと創造性を支援・推進し、文化に関する知識を深め、世界中のクリエイターにインスピレーションを与えることをミッションとしとしています。展覧会、教育プログラム、デジタル体験、保存修復、研究活動、そして世界最大規模を誇る 280 万点以上の作品からなるナショナル・コレクションを通じて、5,000 年にわたる人類の創造の物語を伝え続けています。



© Victoria and Albert Museum, London

<開催概要>

展覧会名：ディーヴァ 展（英：DIVA）

会 期：2027 年 3 月 24 日（水）～ 7 月 19 日（月・祝）

会 場：国立新美術館 企画展示室 2E（〒106-8558 東京都港区六本木 7-22-2）

主 催：国立新美術館、ヴィクトリア&アルバート博物館、ソニー・ミュージックエンタテインメント

展覧会公式ウェブサイト：<http://diva2027.jp>

展覧会公式 X：[@divatokyo2027](https://twitter.com/divatokyo2027)

展覧会公式 Instagram：[@divatokyo2027](https://www.instagram.com/divatokyo2027)

<広報素材・プレスリリース配信登録>

本リリースの PDF データや本リリース掲載の広報画像（画像クレジット）をご希望の際は、以下「広報用画像申込フォーム」でお申込ください。QR コードもご利用いただけます。また、本フォームより、ディーヴァ展に関する今後のプレスリリースや最新情報を随時メールでお届けする配信登録も受け付けています。



QR コード

広報用画像申込フォーム：<https://forms.gle/1LTU5vudb8z5mGiF9>

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>

ディーヴァ展広報事務局

E-mail：info@diva2027.jp